



2017. 2. 17

ひよこ生活発表会



2/10(金)ひよこぐみの生活発表会がありました。この日は、雪の降る寒い日になってしまいましたが、多くの皆さんが幼稚園に来られ、子どもたちの発表をご覧いただきました。

発表の内容は、「はらぺこあおむし」でした。とても楽しそうに取り組んでくれました。子どもたちが、このお話を大好きなことがよくわかりました。完全にあおむしになりきっていました。

子どもたちは、お家の皆さんが来てくれたことが、嬉しいのでしょう。一生懸命に手を振っていました。

ひよこぐみは、先生や友だちと一緒に表現する楽しさをふだんの保育の中で共感できるように取り組んできました。今回は、普段着の発表ができたように思いました。子どもたちの笑顔ややる気に、勇気づけられた保護者の皆さんも多かったのではないのでしょうか。温かいご支援、ありがとうございました。

小学校で大切な力は？

小学校に入学して、大切な力はどんなことだと思いますか。私は「友だちと一緒に活動できたり、遊んだりする力」だと思っています。小学校へ入学したときに、みんながいろいろなことを完璧にできるわけではありません。でも、友だちと一緒に何かできる子は、

どんどん学校生活に慣れていくでしょう。そして自分自身の力も伸ばすことができるでしょう。よく考えると、友だちと登校したり、給食当番をしたり、一緒に遊んだり、やることはたくさんあるのです。

今、幼稚園のくらしを振り返ると、やはり友だちと一緒にする活動はとても多いのです。朝の時間、ホールや保育室では子どもたちが自由に遊んでいます。しかし、この遊びをよく見ると一人で遊ぶのではなく、まわりの友だちとかかわりながら遊んでいる姿を多く見ます。例えば、積み木で遊んでいる子は、長い橋を作っています。すると反対側からつながる道路を作ろう、その近くにあるビルを作ろうと、どんどん遊びが広がっていることがわかります。また、給食の準備も、子どもたちが協力して運び、先生と力を合わせて準備しています。友だちとの会話でも「よくがんばったね」とか「ありがとう」という言葉が聞こえます。私は野田学園幼稚園の子どもたちは、友だちや人と一緒にやっていく力はしっかりと育っていると思っています。



朝の時間、子どもたちがかるたで遊んでいました。札を読み、みんな素早く取れているのに驚きました。

一緒にやることを通して、自分を調整する力や相手の気持ちに共感できる力が育ってきます。保護者の皆さんと一緒に荷物を運んだり、子どもたちと集まって遊んだり、そんな機会が多くできるといいですね。



次の日がお店屋さんの日だったので、みんなが飾り付けをやっていました。上手にできていました。

もうひとつは、見通しをもって生活する力です。これはすぐには難しいかもしれませんが、小学校に入ったら毎日の準備を自分で行うようになります。教科書やノート、筆記用具、ときには体操服やエプロンなど多岐にわたります。もちろん、先生が用意するものを教えてくれますが、だんだん次の日の活動をイメージして準備をしていくと、忘れることが減っていくでしょう。失敗を恐れることではなく、失敗を経験として生かして次につなげるようになるといいなと思います。

この生活の力を育てることは、やはり子ども自身が「こうしたらいいなあ」と思うところからスタートしたいですね。そして、どうしたらうまくできるかをていねいに教えるのがおとなの役割だと思います。

「入学までに……」と思うことはたくさんあります。でも、それを「やらねばならない課題」としないで「こんなことがひとりでできたらすてきだね」と親子で楽しんでいただけたらいいなと思いました。

性格は変わっていくの？

園長 有馬 重人

私は小さい頃、長男なのになかなか短気だった。ちょっとしたことで癩癩かんしゃくを起こしていた。一見、のんびりしているのに、我慢ができない。今考えるとどうしようもない性格だった。父は教師だったが、私が同じ職に就こうとしたとき、大丈夫か？と囁かれたとか、囁かれなかったとか……。



でも、高校生か大学生くらいから、少しずつ変わることができるようになった。じっくり構えられるようになった。先生として社会人になると、子どもたちや保護者の皆さんへの対応もあって、少しずつ相手のことを考えた行動ができるようになり、自分自身も変わっていったのだろう。ときどき、昔の癖が出て大声で叫ぶこともあったけど。

私の孫が昨年9月末に「お食い初め」というお祝いをした。これからいろいろな物を好き嫌いなく食べ、健康に生涯を過ごせるようにと願って「お食い初め」をするらしい。五目寿司にポテトサラダ、魚のそぼろ、スクランブルエッグなど、小さい子どもには贅沢なメニューが並んでいた。お母さんが頑張ったんだと思った。お父さん(息子)はスプーンで食べものを取り、食べさせようとするが、この子が食べたかったものにスプーンが届かない。だんだん機嫌が悪くなり、プレートごとぶち投げてしまった。そして、大泣きをした。お姉ちゃんのほうが冷静に見ていた。「一番奥のゼリーばかり見ていたよ」と言った。そうか、ゼリーが食べたかったんだ。だから爆発したのだ。孫は、3番目の子だ。しかし、上の二人は高校生と小学校の高学年で兄姉というより、小さい孫は独りっ子みたいなものだった。そんな環境の影響があるのかもしれない。

この癩癩は、小さい頃の自分を見るようで、何とも言えない気持ちになった。こんなことまで似なくてもいいのに。でも、共通の気質があるということは、血のつながりかな？とも思ってしまう。

改めて、園児にも孫にも言ってあげたい。

「少しずつ大きくなっていくと、人の性格は変わっていくよ。たぶん、まわりの人間関係や自分の置かれた環境で、人とうまくやっていく術すべを身に付けていくようになると思うからね。だから、安心してほしい。このままが大人になるわけではないから。『こうなりたい』という気持ちは、しっかりと持ってくれるといいな」



子どもたち自身は、そんなことまで考えたりはしないでしょう。でも、このままでは心配と思うのは、保護者の皆さんだと思います。子どもたちは、十分に変わっていける余地を持っています。だから可能性を信じてあげることが、大切だと思います。新しい育ちが見られたときに、しっかりと認めてほめましょう。それが子どもの自信につながり、自分から取り組む姿もきっと伸びてくると思います。

お店屋さんは大繁盛!!

2/14(火)に年少～年長児で楽しむ“お店屋さん”がオープンしました。一人一人が買い物とは、どんなものかを実感できるよい機会になりました。子どもたちは、自分が気に入ったものを積極的に購入することになります。でも、ほしいものをゲットするには、簡単ではないのです。「これをください」と売り手の人に、自分の気持ちを伝えなければいけません。そして、売り手にお金を出さなければいけません。人が集まるときは、手際よく動く必要もあります。体験することで、子どもたちは、買い物の手順をだんだん身に付けていくようです。保護者の皆さん、商品づくりにご協力していただき、大変有り難うございました。子どもたちが、大興奮の一日でした。



年少さんのお店は八百屋さんでした。



シンプルな野菜が大人気でした。どんどん買物をしていました。



2階のさくらぐみは、お菓子を売っていました。



きく組ではお弁当が売られていました。美味しそうでした。



心細い財布の中身を補充していました。



すみれ組では服屋さんで女子に人気でした。



かわいいカップケーキでした。